

感謝を伝える大切さ

千代中学校 三年 堀 萌菜

私は、「ありがとう」という言葉には、とても大きな力があると思っています。たった五文字の言葉ですが、それを伝えるだけで、相手の心を温かくし、自分の気持ちも前向きに変わります。だから私は、どんなときでも感謝の気持ちを持ち、それを言葉で伝えることが大切だと考えています。

私がそのことに気づいたのは、小学5年生のときの出来事がきっかけでした。私は、家族から誕生日プレゼントとして、前から欲しかったゲームの力セットを買ってもらいました。ですがその日の私は、なぜかライラシいて、「ありがとう」の一言が言えず、早く帰つてプレイしたいという気持ちでいっぱいになつてしましました。家に着いてからも、親に冷たい態度を取つてしましました。その日の夜、父が私の部屋に来て、「誕生日プレゼントを買ってもらつて嬉しいのは分かるけど『ありがとう』って言つてくれたら、こつちも買つてよかつたなつてうれしい気持ちになるんだよ。」と。私はその言葉を聞いて、胸がぎゅっと締めつけられるような思いがしました。「ありがとう」という思いは、言わなくても伝わると思っていたけれど、やっぱり言葉にしなりと伝わらないのだと実感しました。それ以来、私はどんな小さなことでも「ありがとう」というように心がけています。

道を譲つてくれた人に。ノートを貸してくれたクラスメートに。いつもがんばってくれている家族に。はじめは少し照れくさかつたけれど、言うたびに相手が笑顔になつてくれるのを見て、「ああ、この言葉には、本当に力があるんだ。」と感じるようになります。また、感謝の言葉は人間関係をよくすることにもつながります。あるとき、部活動で後輩がミスをしてしまい、みんなが少し冷たい雰囲気になつたことがあります。その後輩は誰よりも一生けん命にがんばっていたことを私は知っています。その後輩は誰よりも一生けん命にがんばっていたことを私は知っていたので、声をかけました。「手伝つてくれてありがとう。次は上手に出来るよ。」そう言うと、その後輩は笑つて「はい！」と元気良く答えてくれました。その日から、その後輩は前よりも積極的に行動するようになりました。「ありがとうございます」は、相手の行動を認める言葉です。それを言われた人は、「自分のやつたことが無駄じやなかつたんだ」「がんばつてよかつた」と思えるのだと思います。逆に何も言われなかつたら、自分の努力が無視されたような気持ちになつてしまうかもしれません。現代では、SNSやメールで簡単に連絡を取れるようになりましたが、だから

こそ直接言葉で「ありがとう」を伝えることの価値が高まっていると感じます。文章だけでは、気持ちがうまく伝わらないこともありますが、目を見て、声に出して伝えること、その思いははずつと強く相手の心に残るのです。もちろん、いつも完璧に感謝を伝えられるわけではありません。私も忙しかったり、疲れていたりしてつい忘れてしまうこともあります。でもそんなときでも、あとで気づいたら「さつきはありがとう」と伝えることを大事にしています。遅れても、その一言はきっと意味のあるものになると思うからです。

私はこれからも、「ありがとう」の気持ちを大切にして生きていきたいと思います。そして、それを言葉にして伝えることを忘れずにいていいのです。もし一人ひとりが感謝の気持ちを持ち、それを素直に伝えられるようになれば、学校や家庭、社会全体がもっとあたたかい場所になるのではないかでしょうか。私たちにできることは小さなことかもしれません。でもその小さな「ありがとう」の積み重ねが大きな優しさや信頼を生むのだと私は信じています。